

令和5年度第1回役員会会議報告

日時：令和5年6月30日（金）9時30分～12時30分

開催方法：オンライン（Zoom）を活用しての開催

出席者：17名

○役員（12名）

辻川会長、佐々木副会長、早川副会長、森本副会長、金原理事、杉山理事、藤吉理事
（関根代理）、西理事（高野代理）、青山理事、定兼理事、福嶋理事、毛塚監事

○会長事務局（2名）

○副会長事務局（1名）

○大会・研修委員会事務局（1名）

○近畿部会事務局（1名）

1 報告

（1）第25期（令和5・6年度）役員・委員について

- ・会長事務局より報告後、役員各自自己紹介。

（2）令和4年度第2回役員会、臨時役員会（第3回）会議報告について

- ・会長事務局より報告。全史料協ウェブサイトに掲載済み。

（3）会員数の現況及び令和4年度会費納入状況報告について

○会長事務局より報告。

- ・令和5年3月31日時点で、機関会員 135 機関、個人会員 251 名、合計 386 会員
- ・前年度末の会員数と比較して、機関会員が4機関減（退会4機関）、個人会員が3名増（入会11名、退会8名）で全体では1会員の減である。
- ・令和4年度末の会費納入状況は、納入件数360、未納件数17である。
- ・長年全史料協に参加し、会運営にも携わっていた機関の退会もあり、機関会員の継続的参加を促すための、会の課題について検討の必要がある。

（4）地域別協議会活動報告について

○関東部会

- ・総会は令和4年6月3日（金）にオンラインで開催。役員会は総会開催日の午前及び令和5年2月24日（金）の2回、いずれもオンラインで開催したほか、令和4年12月5日（金）を基準日として内規改正に係る臨時役員会を书面決議として開催した。
- ・定例研究会第306回は令和2年12月10日にZoomを用いて開催。同307回は近畿部会との共催で令和3年3月18日にZoomを用いて開催した。
- ・研究会としては、総会記念講演会及び第313回から第316回の定例研究会を開催した。
- ・『アーキビスト』第97号を令和4年6月に、第98号を令和4年9月、第99号を令和5年3月に刊行した。

- ・令和5年4月1日現在の会員数は、機関会員51名、個人会員102名、計153となっている。
- ・今年度は対面式での定例研究会開催を予定しているが、その場合、オンラインの方が参加しやすかった非常勤職員等への対応も課題となる。

○近畿部会

- ・令和4年6月26日(日)に総会を対面式で開催した。同6月22日(水)に役員会をオンラインで開催した。運営委員会については令和4年5月13日(金)と令和5年3月16日(木)の2回、いずれもオンラインで開催した。
- ・例会は第159回から第164回の計6回開催した。そのほかに、令和4年9月10日(土)に目録規則・デジタルアーカイブ研修(AtoM 実習)を開催した。さらに、公文書管理条例勉強会を3回、いずれもオンラインで開催した。アーカイブズ学的な内容の例会にも取り組むことができた。
- ・会報をデジタル版で77号から80号まで発行した。月報を157号から162号までの6冊発行した。
- ・令和5年1月31日段階での会員数は、機関会員16機関、個人会員63名、通信会員5名となっている。

(質疑・意見等)

○辻川会長

- ・関東部会の運営について現状はどうか。

→昨年度会長を受ける機関のローテーションをワーキンググループで決めたが、機関会員の退会によりその前提が崩れた。また機関会員にとって、現場で働く人にとってのメリットという会の本義に戻っての議論が必要。9月開催の運営委員会で検討したい。

○辻川会長

- ・地域別協議会(地方部会)こそ全史料協の足腰であり、今後も相互の連携、また親会とも意見交換しながら進めていってほしい。

2 協 議

(1) 令和4年度事業結果報告

令和4年度事業結果報告について各事務局から報告。

○会長事務局

- ・総会は令和4年7月26日(火)にオンラインで開催した。また第25期役員体制を承認するため、令和5年5月23日(火)に臨時総会を開催した。
- ・役員会については、定例の役員会を令和4年5月31日(火)、令和5年3月3日(金)に開催したほか、第25期役員体制を固めるため、10月6日(木)、12月15日(木)に臨時会を開催、さらに臨時総会に向けて5月8日(月)に臨時会を书面開催した。
- ・会員に係る事務、会費徴収事務は事務支局を通じて実施した。
- ・令和5年2月6日アーカイブ関係機関協議会に出席した。

○副会長事務局

- ・国際団体への負担金送付、その他国際交流事務を担当。ICAの会費について請求がなかったため2年度にわたり納入しておらず、一時的に会員資格を喪失している。

○大会・研修委員会

- ・委員会は4回開催。内2回は対面とオンラインを併用して大会現地で開催した。
- ・大会はピアザ淡海 滋賀県立県民交流センターを拠点会場としてオンラインで開催した。
- ・会報「大会特集号」の編集について広報・広聴委員会に協力した。

○調査・研究委員会

- ・委員会は3回開催。内第3回は公文書館機能普及セミナー当日、対面式で開催した。
- ・公文書館機能普及セミナーについては、令和4年11月29日(火) 松江市市民活動センター交流ホールで開催。参加者は40名であった。
- ・中国地方基礎自治体の公文書保存に関するアンケートについては、公文書館機能普及セミナーにおいて中間報告を実施。全史料協会誌に最終報告を掲載予定。
- ・大規模災害発生時における情報窓口・連絡調整としては、計3回の地震、豪雨被害について安否確認を実施した。
- ・関係機関からの後援依頼について、9件の後援承認を行った。

○広報・広聴委員会・委員会は3回、いずれもオンラインで開催した。

- ・会誌『記録と史料』第33号(令和5年3月発行)及び『会報』第112号(令和4年9月)、第113号(大会特集号・令和5年3月)を発行した。
- ・HPについて、各委員会や会員、関連機関等から寄せられた情報を随時掲載した。

(質疑・意見等)

○辻川会長

- ・調査・研究委員会で取り組んでいる公文書保存に関するアンケートについては、中間報告に止めることなく、成果としてまとめてほしい。

(2)令和4年度決算報告

会長事務局から令和2年度事業決算報告がなされた。

- ・新型コロナウイルスの影響で、各委員会・事務局の旅費執行がほとんどなく、結果として委員会費のほぼ半額が残額となった。
- ・結果として、総収入額15,260,941円に対して、総支出額6,132,037円となり、残額の9,128,904円が次年度繰越金となった。なお、昨年度からの繰越金を除いた当年度の実質収支額を見ると、総収入額6,830,256円に対して総支出額6,132,037円であり、差し引き698,219円となっている。

(3)令和4年度監査報告

毛塚監事から会務及び会計は適正に執行されていることが報告された。その上で、これまで機関会員が監事を務めてきたのに対し、今後は個人会員が担当することもある中で、いっそうの透明性を確保する必要があるとの観点から意見が提出された。その内容については、総会資料として掲載されるので参照されたい。

(質疑・意見等)

○森本副会長

- ・各委員会において消耗品費が0円またはそれに近いようだが、必要なものは全史料協の予算で購入すべき。

→○会長事務局 機関が組織として引き受けた場合、それは公務の一環としての業務であるので、消

耗品や複写などは全史料協予算を使わないケースが一般的。

→○高野氏 機関会員が自治体として事務局業務を引き受けることの意味を問い直してみる必要がある。

○辻川会長

・第25期においては、個人会員からなる事務局において適正に事務処理を行っていくシステムの確立を優先させて取り組んでいく。

○定兼理事

・従来から、各委員会事務局→会長事務局で精査した上で、第三者の目で監査していただく形で信頼関係を形成してきた。さらに徹底していくには、監事が2名いてもいいのではないか。

○早川副会長

・監査の内容は、法人格取得を目指すのか、会員に対してしっかり説明できるようにするのかといった方向性でどこまで厳密化するかが決まる。当面は、機関会員が事務局を担ってきた体制から一部個人会員による事務執行に移行する中で、しっかり会員に説明できるようにするというところだろう。

○辻川会長

・ご指摘いただいた点を課題として共有しつつ、議論していく。

* (1) 令和4年度事業結果報告、(2) 令和4年度決算報告、(3) 令和4年度監査報告について議決を諮り、異議なく承認された。

(4) 令和5年度事業計画 (案)

○ 会長事務局

・総会は、7月31日(月)にオンライン形式で開催する。
・役員会について定例の2回の役員会に加えて、大会が開催される前日、11月29日(水)に開催し、会のあり方に関わる議論を行うことを予定している。
・その他の業務として、「組織・運営の在り方についての検討」を加えた。

○ 副会長事務局

・国際会議・セミナー等の会員への広報、国際団体への負担金送付、その他国際交流事務及び会長事務局の補佐等を行う。
・ICAへの会費納入を行い、会員への復帰を果たす。
・今年度開催予定のICA総会、EASTICAセミナーについて、HPを通じて情報を共有する。

○ 大会・研修委員会

・役員会について第1回をリモート形式で開催した。7月下旬に会場となる駒澤大学で第2回を、また大会前日に同じく駒澤大学で第3回を開催予定。第4回は令和6年2月に徳島県立文書館での開催を予定。
・大会は11月30日(木)、12月1日(金)の2日間、東京都世田谷区の駒澤大学を会場とし、ハイブリッド形式で開催する。テーマ、報告者などについては7月26日(水)に開催する大会・研修委員会で決定し、情報を共有する。今後、大会に向けて大会開催要項の作成、「大会案内」「大会冊子」の編集を進めていく。

- ・広報・広聴委員会と協力して会報「大会特集号」を発行する。
- 調査・研究委員会
 - ・第1回委員会は6月22日にオンラインで開催。今後、8月、11月、来年2月に岡山県またはセミナー開催地での開催を予定している。
 - ・公文書館機能普及セミナーについては北陸での開催を検討中。
 - ・調査・研究事業としては、「中国四国県立公文書館と県立学校アーカイブズ(仮)」といったテーマでアンケートを踏まえた調査を準備中。
 - ・大規模災害発生時における情報窓口・連絡調整について、広域的災害が多発する現状に適応して、情報の集約体制等を検討中。国の文化財防災センターとの連携検討。
 - ・後援承認については例年通り対応していく。
- 広報・広聴委員会
 - ・6月2日、4年ぶりに対面式での委員会を開催。年度内あと2回の委員会はオンラインで開催の予定。
 - ・会誌・会報について下記の通り刊行していくとともに、HPを随時更新する。
『記録と史料』34号（令和6年3月予定）
『会報』第114号（令和5年9月予定）、第115号（令和6年3月予定）

(5)令和5年度予算（案）

- 会長事務局よりとりまとめて令和5年度予算(案)について説明を行った。
(質疑・意見等)
- 定兼理事
 - ・繰越金が多い時の、特別会計への繰り出しについて議論を深めてほしい。
 - ・国際会議には積極的に参加し、情報を会員に共有すべきである。
 - ・大会の内容がこれまでの流れの中でどのように位置づけられているのか、役員会でも共有できるようにしてほしい。
 - ・調査・研究委員会の取り組みを単なる調査に止めず、形にしていくべきである。
- 金原理事(大会・研修委員会)
 - ・今年度の大会テーマ研究会では、基礎自治体の公文書館に焦点を当てる方向で、現在詰めている。できるだけ早い時期に情報を共有したい。
- 杉山理事(調査・研究委員会)
 - ・ここ数年、中国・四国地方のアンケートをもとにして調査研究を進めてきたが、これを踏まえつつ全国的な動向に膨らめていける形で報告につなげていきたい。
- 辻川会長
 - ・国際会議への参加などについては会長事務局・副会長事務局で相談しながら対応する。

*（4）令和5年度事業計(案)、（5）令和5年度予算(案) について議決を諮り、異議なく承認された。

(6) 令和5年度総会の開催及び「会長ステートメント」について

○会長事務局

- ・総会の日程、スケジュール、運営上の留意点について報告した。

○辻川会長

- ・会の健全かつ持続的な運営に向けて、総会において会員に伝えるステートメントについて説明した。1 役員組織各事務局の負担軽減、2 会員全員が共有し、担う、会員のための全史料協の実現の2点を骨子とする内容について要点を述べた(詳細については総会資料として配布されるステートメントを参照)。

(質疑・意見等)

○福島理事

- ・自分の周囲でも主要な機関の脱退、地域における類縁機関の協議会に参加することで全史料協へのニーズが減少していると感じている。日常的な課題解決の場として機能できているか、近年の全史料協の活動に不足していたものの洗い出し、そうした議論の場が必要。

○定兼理事

- ・ボランティアの参加と同時に、支弁すべき費用は支弁するという方針を言明することも必要である。

○毛塚監事

- ・ステートメントにあった、自主的な研究会などを会全体として後押ししていくといったことが、実際の活動に反映されるよう留意してほしい。

○金原理事

- ・ステートメントの方向性について賛同する。大会研修委員会はアンケートを通して会員の意見を把握できるので、共有を図っていく。

○杉山理事

- ・調査研究委員会としては、資料の利用や保存に向けた意識の向上につながるような活動をめざしたい。また、災害時の状況やレスキューに係る情報を機関会員だけでなく個人会員も含めてどこまで吸い上げられるかも、全史料協としての課題となろう。

○辻川会長

- ・各委員会や地方部会の自律性は尊重しつつ、ステートメントを通じて呼びかけることで議論を深めていきたい。

* (6) 令和5年度総会の開催及び「会長ステートメント」について議決を諮り、異議なく承認された。

(7) 会誌販売価格の見直しについて

○広報・広聴委員会事務局(関根)

- ・会誌の編集・印刷・発行に係る諸経費を勘案し、これまで創刊以来1,200円に据え置かれてきた会誌の販売額を、令和6年4月から一律2,500円(税込)に値上げすることを提案する。

(質疑・意見等)

○森本理事

- ・詳細な試算に基づいた提案を理解するが、これまでのバックナンバーに遡って値上げするという

事については説明が別に必要ではないか。次号から値上げするということでは難しいのか。

- ・あわせて、バックナンバーの在庫について一定の整理がされてもいいのではないか。

○広報・広聴委員会事務局(関根)

- ・委員会の中でも号数によって価格差をつける案が検討されたが、保管や販売にかかるコストや事務負担、また実はそれほどバックナンバーの売り上げがないことから、一律とする提案に至った。また、バックナンバーの整理・廃棄はすでに一定度行われているが、それでも文書箱 30 箱から 40 箱を機関で保管している。今後も検討する。

* (7) 会誌販売価格の見直しについて議決を諮り、異議なく承認された。

(8) 謝金等に係る所得税源泉徴収の扱いについて

○会長事務局

- ・標記の件について、全史料協では、これまで講師謝礼等の謝金に係る所得税源泉徴収事務は扱ってこなかったが、今後どのようにしていくか、事務局として法律の規定の確認、税理士からのヒアリングなどを行い整理した。
- ・現状では会長事務局を含めて各事務局とも源泉徴収事務を行える環境及び余力はなく、実施は困難であり、非会員であっても講師等の依頼は、旅費実費支給のみの手弁当でお願いするなど極力報酬等の支給を回避することとし、どうしても報酬支給が必要な場合は、支給相手方に確定申告をしてもらうよう強くお願いする対応として、引き続き、この件についての解決方法の検討は続けることとしたい。

(9) 令和4年度・5年度表彰について

- ・令和4年度の「功労賞」「感謝状」については、滋賀大会がオンライン開催となるため、多くの会員の前での表彰が行えないことを理由に見送り。
- ・「奨励賞」については、令和4年度総会開催通知に推薦募集案内を同封して呼びかけたが、応募なし。
- ・令和5年度の「功労賞」「感謝状」については、本役員会で推薦を募ることとなっている。・令和5年度総会開催案内に奨励賞推薦に関する案内を同封する。推薦があった場合は、会長事務局がとりまとめ、役員会で共有し、稟議により決定する。

3. その他

○定兼理事

- ・全史料協の 50 周年記念 事業に向けて今から準備委員会とかを設けていくのはどうか。会長ステートメントの中でも言ってもらえたら嬉しいのだが。

○辻川会長

- ・積立金をどう使うかということとセットになっているので、宿題として少し考えさせてください。

以上